

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200		
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス		
事業所名	グループホーム憩いの里かがの	ユニット名	
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野二丁目26番地2		
自己評価作成日	平成29年10月20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、閑静な住宅街の一角にあり、目の前の路上でキャッチボール等、遊ぶ子どもたちの姿や声が聞かれ、また犬の散歩等で通る地域の方々といさづつを交わしたり、事業所の畑づくりを近所の方々から指導を受けたりと地域の方々との関わりを感じられます。また、通所介護事業を通じて、地域の方々により理解していただいております。
開設して5年を経過し、平均年齢や介護度等が高くなってきており、認知症、転倒予防の体操や歌唱、レクレーションを毎日行っています。また、新聞の拾い読みや懐かしい歌や映像を鑑賞して思い出話し等の回想、職員もご利用者の生きてきた時代を理解するツールとなり、より良い関係づくりに繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年が経過し地域住民との挨拶、畑づくりを教えてもらうなど等交流がある。防災協力員の自動通報装置の登録で地域との関わりを強めている。共用型通所により認知症の理解も深まっている。懐かしい歌や映像の鑑賞、独自の「桃太郎体操」等を毎日取り入れることで入居者の転倒予防に努めている。職員の研修参加、資格取得も積極的に行っている。訪問診療や看護師の24時間体制は入居者や家族、職員の安心に繋がっている。ユニット理念の「一人ひとりの思いを活かせる様な生活を支援します」「いつも明るく笑顔で優しく接します」の実践のため入居者の意向の把握、情報交換を大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム憩いの里かがの)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初、職員全員で話し合って掲げた理念を定例のサービス会議の冒頭に確認してから、会議に臨んでいる。	月1回全職員が参加するサービス会議で唱和し確認している。「よろこびある充実した暮らしを」を実践するため、入居者の想いに寄り添いながら笑顔で明るく支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近隣の防災協力員の方々、また畑の耕耘や作業指導をして下さる方、毎日犬の散歩途中に寄って下さる方と日常的に交流がなされている。	犬の散歩途中に毎日立ち寄り、干し柿用の柿をいただく等交流がある。職場体験で高校生が来る。地域情報は運営推進会議で区長から得ている。今年も防災協力員が防災訓練に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型の通所介護事業を行い、地域の方々の支援を行っている。同町内の方が5名利用されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を経て地域区長さんからの呼びかけで防災協力委員の協力体勢を確立し、定例の防災訓練等を実施している。評価への取り組みについても報告し、評価団体を定期的に変更する等の提案されている。	会議は年5回開催し、市職員、地域包括職員他が参加し、生活・活動状況などを報告し意見交換している。外部評価機関の変更も意見によるものである。悪天候のため会議が1回中止になった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には、福祉事務所および包括支援センターの職員に参加して頂き、活動状況を報告しながら、各種情報や助言指導を頂いている。	市から研修案内はメール送信される。「介護研修センター」で行われる研修には職員が交代で参加している。転倒事故の報告も速やかに行ない、助言を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の施錠は、防犯上夜間は施錠しているが、それ以外は玄関はもとより、食堂や居室等解錠している。飛び出し等については、見守りと行動を把握し、またセンサーを使用してその都度対応している。	日中は全て解錠、午後7時から朝7時まで施錠している。骨折治療中の方は、家族の同意のもとベッドに転倒防止の柵をしている。5つの居室と玄関にはセンサーを置き、行動把握のために使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はもとより、不適切なケアについても話し合い、会議の際に研修したり、カンファレンス等を通じてBPSDの理解を深めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社で開催される社内研修にて、社長から日常生活自立支援事業についての講義を受け、また利用者の権利等もカンファレンス等で必要に応じて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の説明は、懇切丁寧を旨とし、重要事項説明書等を用いて説明を行い、その後に於いても不安や疑問点については、説明を行い、何でも話せる関係づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料を現金で領収し、月1回は面会に来ていただくことになっており、その際に生活の様子や健康面について説明し、併せて意見や要望を伺っている。	毎月の面会時に、「かがのだより」を渡し、入居者の様子や通院の報告をしている。「服の入れ替え」など家族からの意見を聞いている。入居者の好きな食べ物の差し入れは喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年末に全社員が社長に直接意見や要望を書面で提出する仕組みがある。また、月例のサービス会議において、会社の方針や施設の運営状況を伝えて意見を聴取し、会社全体の会議にて報告している。	デイサービスに通所している方も含めた入浴の順番について意見交換する等ケアに関わる話し合いが多い。職員の研修参加や資格取得も積極的に支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年、全社員を正職員に登用、退職金制度を設けている。また、年に2回の人事考課を実施し、その結果を各職員へフィードバックし、賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社全職員対象に社内研修会を実施している。また、宮城県介護研修センター等の外部研修の受講、その後の伝達研修等を事業所内で実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	登米市介護保険事業者連絡協議会の入所施設部会での情報交換や研修会へ参加している。また、通所介護による担当ケアマネージャーとの情報交換等でサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時の生活状況や家族関係、現在抱えている問題や不安、こだわり等を日常の会話や表情、行動を理解し、どのような生活を望んでいるのかを把握して、その人らしい生活に近づけるため、一緒に考えられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在困っていることや不安なこと、まだどのような関係でどんな生活を過ごしてもらいたいのかを共に話し合い、協力して一緒に考えるという関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境や他のケアサービスについて、担当ケアマネージャーとの情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、できることやできる可能性があることを一緒に行う中で、可能性を追求している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割、関わりを一緒に考える様になっている。また、「かがのだより」や写真の掲示等で、実際の生活の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親子で入居されている方がおり、不定期だが外泊しており、自宅近所の方の面会がある。またご夫婦で入居している方は月に2回は家族と昼食をするため、外出されている。	家族が毎週面会に来る方や法事で一泊して来た方もいる。元同僚や近所の方の来訪もある。懐かしい童謡や歌謡曲は、間違わないで歌え、入居者が喜ぶのでよく取り上げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前中、通所利用の方々と体操やレクリエーション、午睡後におやつ後の談話やぬりえ等を行い、職員が間に入り、代弁や会話の仲介を行って、孤立しないようにしている。午睡以外は、全員がホールで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族が、現在も畑の耕耘や野菜作りの助言をして下さり、また近況もうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、全入居者について気づいた点を全職員から文書で提出されたものを会議で話し合い、検討している。	毎月、全職員が提出する気づきの内容を検討し、入居者の状態や意向を把握、共有している。好きな編み物をさりげなくサポートしたり、食べたい物を聞く等意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活行動、会話の内容等をご家族へ伝えることで得られる情報、またご家族の知らない情報等、利用料の支払時には家族とできる限り面談して情報交換を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事や水分量、また排泄状況を確認すると共に、表情や行動を観察しながら、できることを模索し、やってみては評価するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員を中心にアセスメントを行い、加えご家族の意向やエピソードを聞きながら、その人を捉え、全職員でのカンファレンス会議を経て計画書を作成している。	担当職員中心にアセスメントを行ない、課題とケアのあり方を反映させ、職員全員での会議を経て計画書を作成している。必要に応じて見直し同意を得ている。「医療情報」を回覧して周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて、ケアプランチェック表を元に各担当が毎月の状況を計画作成担当者と共に確認し、継続や見直し等、サービス会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課や業務の手順にとらわれず、個々の希望や心の動きに応じて個別の対応ができ、周りがそれをフォローできる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、災害時の防災協力員、畑作りのボランティアの方との親交、また毎日、犬の散歩途中で立ち寄り、犬とのふれあう機会、施設前を通る方や保育園児、公道で遊ぶ子どもたちと挨拶を交わして楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に通院支援を行っている。受診の結果については、必要に応じて受診後や面会の際にご家族へ報告し相談し、直接医師との情報交換を行っている。	月2回の訪問診療に3名、かかりつけ医の定期通院には管理者が付き添っている。週1回の登米市訪問看護ステーションの看護師による健康管理と24時間連絡体制は入居者や職員等の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登米市訪問看護ステーションと契約、毎週水曜日に診ていただいている。その際、受診時の情報やその経過を報告し、また医療面に関する相談助言を頂いている。時に看護師から主治医へ直接報告し、指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のカンファレンスに出席している。また、その後の経過についてご家族と情報を共有しながら医療機関との関係づくりに努めている。入院中は、面会や洗濯物の入れ替え等も協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、施設の看護介護状況および設備状況について説明し、重度化した場合に施設でできることを説明している。現在、特養への入所申込している方が2名おられる。	看取り指針はあるが看取りの実績はない。入居時にホームの看護や介護状況等を十分説明し同意を得ている。重度化した場合は入居者と家族の意向を尊重して医師や関係者と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法等については、周知しているが、訪問看護師が来所時に助言指導を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の8名の方に防災協力員として了承を受け、自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡する体制がある。また、合同の訓練を毎年実施している。	避難訓練は夜間想定も含め年2回実施した。自動通報装置に登録の防災協力者も訓練に参加した。緊急時の携帯電話の「安否確認システム」で、職員の所在把握をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の行動心理症状の理解やコミュニケーション方法等の研修を行うとともに、一人ひとりの性格や価値観を会議で話し合い、理念に沿ったケアの実現を目指している。	女性は名前、男性は名字で呼んでいる。食事時の座る位置は、入居者の居心地を考えて変更した。職員は日々のケアの中で、入居者一人ひとりに向けた声掛けの工夫が必要と考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に決めたり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険や健康を損なわない限り、できるだけ柔軟に対応している。一人ひとりの性格や趣向を把握し、場面毎に働きかけを行い、言葉や表情等から判断して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。また、髪型もこだわりや生活習慣に応じて理美容院を定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモやタマネギ等の皮むき、味付けや盛りつけ、テーブル拭き等の準備、食器洗い、片付け等、できる所をそれぞれ役割分担して行っている。	献立は法人の栄養士が1ヵ月分作成している。誕生日にケーキ、お正月にはつきたての餅で祝っている。食事は職員も一緒に、食べやすいようにスプーンでつぶす等してサポートしている。水分摂取にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のデイサービスの栄養士が作成した献立に従い、個々に応じた調理をしている。また、1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーやお茶等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々の能力に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。	排泄チェック表でパターンを把握し、声掛けをしている。便秘の方には食事を工夫し、改善が見られない時に医師に相談して薬で対応している。リハパン使用の方がほとんどである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じて、できる限り下剤に頼らない自然排便を目指している。また、随時医師と相談して下剤の調整を行い、水分量の把握や運動等に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日を設定しているが、気分が乗らない場合、時間帯を変更したり、入浴日を変更するなど、柔軟な対応をしている。	入浴は週に2~3回で、1時間位かけてゆっくり入り、湯は1人入ったらその都度取り替えている。浴室は二人介助しやすい造りで広い。拒否していた方も今は声掛けの工夫でスムーズに入るようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンが崩れない限り、気分に応じて自室や小上がりの畳等で休息したり、食事時間や入浴時間をずらしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容および副作用を周知し、表情や行動、生活状況の変化等の観察に努め、状況を主治医へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や食事の準備、洗濯物干しやたたみ方等、能力に応じて行っている。また、唱歌や歌謡曲等、昔の映像を流し、楽しんでいたと共に入居者間の話題になるように働き掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物の同行は、随時行っている。また、チューリップまつりや菖蒲まつり等、近隣の催しもの見学に出掛けている。 家族が来られ、一緒に外食や墓参り等に行く方もおります。	みなみかた千本桜の花見、米山のチューリップ祭等は法人の車で毎年行っている。職員と買い物に行く方は2名で日用品等を買ったりしている。家族と月2回外食している方がいる。年々外出が少なくなり、理・美容室は近所を利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、家族の了解の上、少額の現金を所持している方が1名おります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には、その都度対応している。手紙については、今年息子さんからの暑中見舞の返事の作成を支援し、今後年賀状の作成の支援を予定している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オルゴールやオカリナ等の季節に合わせたBGMを流し、テレビにこれまで撮影した写真を写してゆったりと楽しく過ごせる様にしている。また、季節感ある装飾を施したり、活動写真を掲示して面会時の話題提供を行っている。	ホールは明るく、軒下の干し柿で季節が感じられる。壁には入居者が作ったカレンダーや写真が飾ってある。湿度管理は加湿器です。BGMや映像は管理者の編集で、入居者の好みや落ち着いたものを取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室で過ごす方がほとんどで、それぞれ居場所ができています。また、時間毎に居場所を変えている方もおります。今後、さらに居心地の良い環境、雰囲気作りに工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んだり、家族との写真を飾ったりしている。また、ぬりえ等の作品を掲示している。	ベッド、整理ダンス、テーブルや椅子は備え付けでテレビを置いてる方もいる。居室は明るく、温湿度計を置いて過ごしやすい環境に気配りしている。掃除は職員がしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解るようにサインを取り付けたり、一息付けるように廊下にベンチを設置している。一人ひとりの可能性を引き出すように、今後も生活観察力を高めていきたい。		